

## 癌化学療法輸液約束処方 非ホジキンリンパ腫

癌種 再発・難治性濾胞性リンパ腫 (1-3A)

レジメン名 NHL21 エプロリタマブ (FL1-3A)

薬品名 (商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与日	1 クール期間
エプロリタマブ	エプロリタマブ		1回目0.16mg 2回目0.8mg 3回目3mg 4回目以降48mg	皮下注	1-3クール目：DAY1.8.15.22 4-9クール目：DAY1.15 10クール目以降：DAY1	28日間

皮下注

エプロリタマブ mg / 皮下注

### <備考>

- ① 2レジメン以上の前治療歴を有する再発または難治性の濾胞性リンパ腫 (Grade1-3A) のに対して使用
- ② CRS対策：Day1（投与30分前までに内服）：デカドロン16mg、レスタミン50mg、カロナール600mg Day2-4：デカドロン16mg  
1クール目 (Day1, 8, 15, 22)：必須 2クール目以降（前クールでGrade2以上のCRSがあった場合）Day1-4：デカドロン16mg  
症状発現時：院内フローチャート参照 参考：エプロリタマブ副作用マネジメントブック2023年11月版
- ③ ICANS対策 症状発現時 ステロイド先行 デカドロン16mg 6時間おきに投与（内服または静注）  
効果がない場合はメチルプレドニゾロン1000mg/日 (Grade3以上)

○休薬 Gr3以上のCRS、ICANS、Gr3以上の血小板減少、Gr4以上的好中球減少

○投与間隔 0.16mgと0.8mgまたは0.8mgとの投与間隔が8日を超えた場合、3mgと48mgの投与間隔が14日を超えた場合、48mgの投与間隔が6週間を→1クール目の投与方法に戻して再び投与を再開すること。その後は、予定されていた次の投与サイクル（投与を延期したサイクルの次の投与サイクルの1日目から投与再開すること。

R7.10.6作成